

広島・長崎プログラム

テーマ：被爆の実相に触れ、核惨事の原因と再発防止策を世界の学生たちと語り合う——南京事件から 80 年、憲法施行から 70 年目の被爆地にて

場 所：京都・広島・長崎

募集人数：15 名（APU から参加の 4 名程度を含む）

現地研修の期間：8 月 1 日（火）～8 月 10 日（木）の 9 泊 10 日

事前研修：衣笠と APU をテレビ回線でつなぎ、第 1 回は 5 月 27 日（土）、第 2 回は 6 月 10 日（土）、第 3 回は 7 月 9 日（日）の午後 3 時からを予定。

事後研修：10 月 7 日（土）の午後 3 時からを予定。

費 用：55,000 円（予定）（広島・長崎までの片道交通費、宿泊代、バス代など）

担当教員：藤岡 惇（経済学部特任教授）

随行教員：ピーター・カズニック（アメリカン大学歴史学教授・核問題研究所長）

随行する被爆者：近藤紘子（アメリカン大学卒、広島流川教会の谷本清牧師の長女）

随行する調整者・通訳：乗松聡子（ピース・フィロソフィーセンター（カナダ）代表）

本プログラムの開催は、1995 年の開設以来今年で 23 回目となります。プログラムの歴史や目標・内容などは、シラバスに詳しく書きましたので、そちらを参照してください。ここではシラバス作成後の変化を中心に、何点か補足することとします。

- (1) アメリカン大学を窓口にして、15 名ほどの学生が 7 月 31 日に来日し、立命館大学衣笠セミナーハウスに 4 泊します。8 月 1 日朝には立命館アジア太平洋大学の学生たちが別府からやってきます。また国際関係学部のクロス京子准教授の指導する英語科目（Peace Study Seminar）の学生たちも、同一ホテルに泊まり、同じ日程で旅行しますので、行動をともにします。北米出身にとどまらず、アジア出身の国際学生も参加しますので、多彩な民族集団からなる理想的な旅行団コミュニティが出来上がるでしょう。
- (2) 宿泊所が内定しました。8 月 1 日から 4 日朝までは、金閣寺の裏にある「立命館大学衣笠セミナーハウス」。4 日夕から 7 日朝までは、広島駅新幹線口から北へ徒歩 5 分の「東横イン新幹線口」。7 日夕から 10 日朝までは、長崎の爆心地から南へ徒歩 15 分の「アルファイン長崎」に泊まります。広島はツインベッド（一部はシングル）の部屋、長崎はシングルベッドの部屋に滞在し、朝食がつかます。
- (3) 本プログラムは、旅行社が組織する「パック型の旅」とは対極にあるスタイルをめざします。400 年ほど前にメイフラワー号に乗ってプリマスの地にたどり着いた「巡礼者の一団」が上陸前夜に「メイフラワー盟約」（合衆国憲法の嚆矢とされる）を結んだ故事に学び、8 月 1 日の結団式場で「平和巡礼団」の「憲法」にあたる「サンフラワー盟約」を起草し、締結します。昨年度に参加した 5 名の先輩学生たちが、「学生リーダー」として再登場し、旅行団の活動を支えてくれます。イベント企画の多くを彼らに任せ、学生主体の運営を行います。
- (4) 参加費はやや多い目に設定していますので、残余金が出たばあい、旅行終了後に返金します。これとは別に、全員で移動する際の市内交通費（タクシー・市街電車など）、入館料、献花の花代、折り鶴、灯籠流し、歓迎・お別れパーティの費用として、参加者全員から 9000 円を集め、「共通基金」を設立し、学生リーダーの管理下で運用します。アメリカン大学関係者や教員スタッフも、同じ旅行団コミュニティの同格の一員ですので、平等に「徴税」されます。「共通基金」については学生リーダーが 8 月 10 日の解団式場で決算報告を行い、残余金が出れば、返金します。
- (5) それ以外の出費は、毎日の昼食代、歓迎・お別れパーティ以外の夕食代、オプション行事への参加費、嗜好品代、帰りの旅費くらい。2-3 万円ほど見ておけばよいでしょう。
- (6) イベントの後には必ず「振り返りの時間」を設け、感想を交流し、旅行内容の改善が図れるようにします。京都での神社仏閣の見学、カラオケ交流、広島での宮島見学や「平和ナイター」での広島カープ関係者との交流、長崎での港めぐりや教会めぐりができるよう、自由時間を増やします。
- (7) 優れた通訳能力をもつ方が同行しますので、英語が得意でなくても、平和問題や参画型の学習スタイルに強い関心があれば、参加を歓迎します。9 泊 10 日の間、英語のシャワーを浴びますので、旅行中に英会話能力は伸びるでしょうし、心がつながる友達を世界各地につくるチャンスです。英語に自信がなくても、やる気とホスピタリティの心があれば大丈夫。安心して応募してください。
- (8) このプログラムの過去の写真や記録を知りたい人は、アメリカン大学核問題研究所の HP (<http://www.american.edu/cas/history/institutes/nuclear-studies.cfm>) にアクセスしてください。様々な写真や過去の映像番組を見ることができます。2015 年度の旅を描いた映像作品、近藤紘子さんを描く各種の映像番組などは出色です。また一昨年に『日米交流で原爆を探究する旅 20 年の歩み』が刊行されましたが、そこにも参加者の感想や毎年の旅のスナップ写真が多数載っています。藤岡惇の HP (<http://www.peaceful.biz/>) のなかの「藤

岡の論文を読んでみませんか」の最後の項目に全文がアップされていますので、お読みください。

- (9) 諸般の事情で、このプログラムの開催は、今年が最終回となります。「最後のチャンス」となりますので、参加希望者はぜひ応募してください。
- (10) 4 回生以上の応募者については、応募理由のなかに、就職活動などとバッティングしない理由について明示しておいてください。3 回生以下でインターンシップなどへの参加を希望している人も同様です。